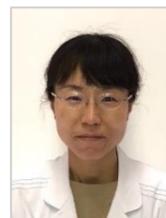




## 腎臓病の食事療法、栄養指導について

栄養科 管理栄養士 古株 陽子



腎臓病の食事療法は、塩分、たんぱく質、カリウム、リン、水分制限…と、制限が多くて大変、というイメージが強いかと思います。反対にエネルギーは充足が必要なので、炭水化物や油脂類は摂取を勧められることが多く、腎臓病の食事療法を初めて知る患者さんやご家族の中には今までの食事との違いに混乱される方も見受けられます。

一度にすべての制限が必要なことは稀で、腎機能や普段の摂取量を考えながら取り組めば決して『食べられない食事』ではありませんが、正しく理解せずに『制限=禁止』ととらえてしまうとあらゆる食品が禁止物になり、「何も食べるものがない」と落ち込み、時には栄養不良に陥ってしまうこともあります。

腎機能も栄養状態も長く良い状態を維持するためには、体や腎機能に合わせた食事を摂ることが重要ですが、予防時から透析期まで一貫して必要なことは減塩（適塩）です。しかしながら、普段食べ慣れた味が濃いのか薄いのかを判断するのは容易ではありませんし、気づかずに摂取してしまっている塩分も多くあります。今度の市民公開講座では特に減塩について、すぐにでも取り組みやすいよう、具体例を挙げながらお伝えしたいと考えています。

## 人工透析センターの活動について

人工透析センター看護師長 岩崎 まゆみ



私が所属する人工透析センターは40床のベッドがあり、そのうち3床個室があります。現在外来維持透析患者様116名と入院治療に来られる透析患者様のベットコントロールを行っています。医師、看護師、臨床工学士、医療事務のスタッフが協力し、質の高い透析医療を提供できるように取り組んでいます。

透析センターでは外来通院の透析患者様と入院治療に来られる患者様に受持ち担当看護師を中心に看護を行っています。定期的に医師とのカンファレンスを行い、心のこもった看護で安全安楽に透析ができること、受け持ち看護師による個別の看護で患者様がホット出来る環境づくり、より健康的で安楽な生活が送れるよう患者様の持てる力を信じ社会復帰の支援を目標に日々の業務を行っています。また超高齢化社会を迎えるにあたって患者家族、多職種、地域の医療関係者と連携を深め、円滑な透析医療の実施がより一層必要と連携を大切にしています。

人工透析センターでは腎代替療養選択外来も行っています。腎代替療養選択外来を行うことで透析医療、移植医療、緩和治療の選択など、透析導入前の患者様が安心して治療法を選択していただけるように関わらせていただいています。透析関連でお困りがございましたら是非ご相談ください。

人工透析センター特定看護師 筒井 寛一



令和4年度に透析関連、血糖コントロール関連の特定行為研修を修了し、現在人工透析センターに所属しています。

当人工透析センターでは一日延べ約60~70人の患者様が透析を受けられています。透析患者様は様々な病気や合併症を有しておられることがあり、多様な症状を抱えられておられる方を多く見受けられます。そんな中で特定行為を行うことによって、患者様の状態判断を行い、迅速な処置の提供による苦痛や負担の軽減が行えるようになります。また、医師の作業負担の軽減も図れるようになるだけでなく、一般スタッフへの指導教育を行い、全体的なスキルアップにも一役買っています。実際にはその日に行う透析治療の条件設定や、血糖に関わる薬剤の投与量の調節を行っています。

また、当センターでは腎代替療法面談も行っており、保存期腎不全の患者様が末期腎不全へと至ってしまった際の、腎代替療法選択を不安なく行えるよう支援に尽力しています。SDM（共同意思決定）を意識し患者様自身、またはご家族様が将来の腎代替療法を行いながら送る生活をイメージして安心して療法選択できる様に心がけて面談を行っています。

今後も患者様の支援、医師のタスク・シフト/シェア、スタッフへの教育支援などを行っていくことが特定看護師の責務と考え邁進して参ります。

## 脳損傷者の自動車運転再開支援におけるドライビングシミュレーターの導入について

リハビリテーション技術科 作業療法士 嘉瀬井 和美  
言語聴覚士 谷 円香  
田邊 信彦



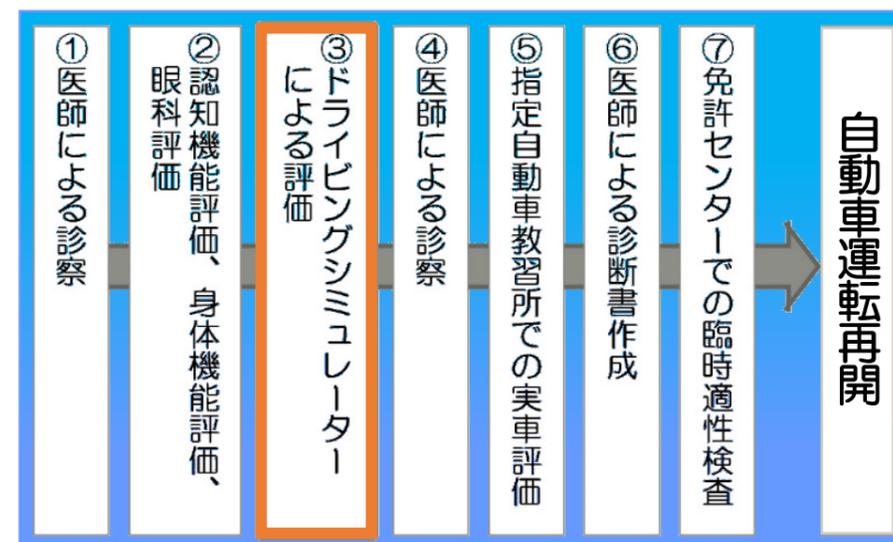
ドライビングシミュレーター (HONDA セーフティナビ)

2023年12月に、滋賀県地域医療介護総合確保基金事業の助成により、湖北圏域の病院で初めてドライビングシミュレーター（HONDA セーフティナビ）を導入しました。この新しい取り組みについてご紹介いたします。

ドライビングシミュレーターは、認知・判断・操作などの運転に関連する動作や反応速度を数値化することで、運転能力をより客観的に比較・評価することができます。3面のディスプレイを使用することで、より広い視野での確認作業が可能で、実際の自動車運転場面に近い環境での評価が行えます。また、運転内容をリプレイすることで、客観的に自身の運転を確認し、苦手な運転動作や場面を認識することが可能です。自動車教習所でもドライビングシミュレーターを設置されていますが、本シミュレーターは医療機関用に開発されたものとなります。

当院が所在する湖北地域は、公共交通機関が限られているため、多くの方が自動車を主な移動手段としています。脳梗塞や脳出血などの脳損傷により、注意力や判断力の低下が生じることがあります。また、運動障害が残る場合もあります。こうした方々が自動車運転の再開を希望される際に、適性があるかどうかを確認し、権利を守ることが重要です。

当院では、2018年から自動車運転再開支援に取り組み、脳神経外科医、眼科（眼科医・視能訓練士）、リハビリ（作業療法士・言語聴覚士）といった多職種が関わっています。また、指定自動車教習所とも連携をして教習所コース内での実車評価も行っております。運転適性を判断するのみではなく、安全な運転再開に向けたリハビリや指導も行っています。最終的には、主治医が診断書を作成し、都道府県公安委員会により運転再開の可否を決定されます。ドライビングシミュレーターの導入により、より詳細な評価や具体的な指導が行えるようになります。



当院での自動車運転再開支援の手続き

脳卒中などを発症された後に、自動車運転の適性評価を希望される場合は、脳神経外科外来にご相談ください。これらの取り組みを通して湖北医療圏に少しでも貢献できるよう努力していく所存ですので、今後ともよろしくお願い申し上げます。